

企画・執筆者紹介 (五十音順)

赤松弘朗 あかまつ・ひろあき

和歌山県立医科大学附属病院 呼吸器内科・腫瘍内科
1978年兵庫県生まれ。2003年大阪市立大学卒。淀川キリスト教病院、静岡県立静岡がんセンターを経て、2013年より現職。専門は呼吸器内科(肺癌)。
これまでの著作に、『新版肺癌内科診療マニュアル EBMと実臨床の立場から』(医薬ジャーナル社、2015年)など。

市原 真 いちはら・しん

札幌厚生病院 病理診断科
1978年北海道生まれ。2003年北海道大学医学部卒。2007年北海道大学大学院医学研究科分子細胞病理学博士課程修了。国立がん研究センター中央病院病理部にて半年間の任意研修後、2007年10月より札幌厚生病院病理診断科。北海道大学医学部客員研究員、病理専門医、臨床検査管理医。
Twitter:@Dr_yandel

梅田 恵 うめだ・めぐみ

昭和大学保健医療学部 がん看護CNSコース教授
昭和大学病院がん看護専門看護師
1987年京都市立看護短期大学卒。1999年聖路加看護大学博士前期課程が看護専門看護師コース修了。昭和大学病院勤務後、2009年株式会社緩和ケアパートナーズ設立、2013年聖路加看護大学院博士後期課程修了し、看護学博士。2014年11月より現職、昭和大学病院で実践にも携わる。他に、日本がん看護学会理事、NPO法人がんネットジャパン理事。
これまでの著作に『がん看護実践ガイド がん患者のQOLを高めるための骨転移と知識とケア』(医学書院、2015年)、『専門看護師の思考と実践』(医学書院、2015年)、『3ステップ実践緩和ケア』(青海社、2013年)、『がん患者のペインマネジメント』(日本看護協会出版会、2007年)など。

加藤 健 かとう・けん

国立がん研究センター中央病院 消化管内科 医長
1968年福岡県生まれ。1995年産業医科大学卒、2001年九州大学大学院修了。下関市立中央病院、九州大学病院、済生会唐津総合病院、JR九州病院を経て、2004年国立がんセンターがん専門修練医、2006年消化管内科スタッフ、2012年消化管内科医長、2015年国立がん研究センター中央病院 バイオバンク・トランスレーショナルリサーチ支援室室長併任。JCOG食道がんグループ事務局、がん薬物療法専門医。
専門は消化管がん化学療法、トランスレーショナル・リサーチ、臨床試験。
これまでの著作に『Esophageal Squamous Cell Carcinoma Diagnosis and Treatment』(Springer、2015)、『あらゆる症例に対応できる消化器がん化学療法』(羊土社、2015年)、『新臨床腫瘍学 改訂第4版』(南江堂、2015年)など。

加藤俊介 かとう・しゅんすけ

順天堂大学大学院医学研究科 臨床腫瘍学、順天堂大学医学部 腫瘍内科学研究室 教授
1966年富山県生まれ。1992年東北大学医学部卒。大学卒業後、東北大学抗酸菌病研究所臨床腫瘍化学療法部門に入局。1996年東北大学大学院医学研究科博士課程修了。その後、宮城県立瀬峰病院消化器科医員、東北大学加齢医学研究所附属病院化学療法科医員、東北大学附属病院腫瘍内科を経て、2009年から東北大学加齢医学研究所腫瘍化学療法分野(臨床腫瘍学分野)准教授。2013年12月より現職。専門は腫瘍内科学。
これまでの著作に、『原発不明がん診療ガイドライン』(メディカルレビュー社、2010年)、『骨転移診療ガイドライン』(南江堂、2015年)、『新臨床腫瘍学 第4版』(南江堂、2015年)など。「自然の中を歩く事が好きですが、東京に来てその時間があまり取れないのが残念です。」

勝俣範之 かつまた・のりゆき

日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科 教授
1963年山梨県生まれ。1988年富山医薬大卒。徳州会病院での研修を経て1992年、国立がんセンター中央病院内科レジデント。その後、同センター専門修練医、第一領域外来部乳腺科医員を経て2003年、同薬物療法部薬物療法室医長。2004年ハーバード大学公衆衛生院留学。2010年、国立がん研究センター中央病院乳腺科・腫瘍内科外来医長、2011年より現職。専門は腫瘍内科学、がん支持療法。
これまでの著作に、『がん診療レジデントマニュアル』(医学書院、初版～第5版)、『誰も教えてくれなかった婦人科がん薬物療法』(メジカルビュー社、2015年)、『がん治療まるわかりBOOK』(照林社、2015年)、『「抗がん剤は効かない」の罪』(毎日新聞社、2014年)など。

川上和宜 かわかみ・かずよし

がん研有明病院薬剤部 主任
1974年岡山県生まれ。2000年昭和薬科大学大学院薬学研究科修了。2000年4月よりがん研有明病院薬剤部勤務、2011年公益財団法人がん研有明病院薬剤部主任、2013年昭和薬科大学にて「Paclitaxelによる末梢神経障害重篤化のリスク因子解析及び基礎的研究」にて博士(薬学)取得(田口恭治教授)。2015年より現職。研究テーマは、抗がん剤による末梢神経障害、経口抗がん薬のadherence。
これまでの著作に『今日の治療薬』(南江堂)、『がん化学療法レジメン管理マニュアル』(医学書院、2012年)、など。

北野滋久 きたの・しげひさ

国立がん研究センター中央病院 先端医療科
先端医療開発センター新薬臨床開発分野・免疫療法開発分野
1972年大阪府生まれ。1998年三重大学医学部卒、同大学内科学第二講座に入局、同科関連病院にて一般内科研修を行う。2001年、三重大学大学院医学系研究科入学、造血器腫瘍と固形腫瘍の診療を行ないつつ、新規がん免疫療法の臨床試験、患者免疫応答解析の研究に携わる。2005年、同大学大学院医学系研究科 遺伝子・免疫治療学講座の助手。2008年、同血液・腫瘍内科助教。2009年、Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, Ludwig Center for Cancer Immunotherapy (Drs.Jedd Wolchok and James Allison)に留学、免疫チェックポイント阻害剤(抗CTLA-4抗体療法、抗PD-1抗体療法など)の新規がん免疫療法の開発、臨床試験登録患者の免疫応答解析を主としたトランスレーショナルリサーチ(TR)に携わる。2013年帰国、国立がん研究センター中央病院に赴任し、新規がん免疫療法をはじめ各種新規薬物療法の早期臨床試験、TRを行っている。専門は腫瘍内科学、腫瘍免疫学、がん薬物療法(とくにがん免疫療法)。
これまでの著作に、Markers for anti-cytotoxic T-lymphocyte antigen 4 (CTLA-4) therapy in melanoma. Molecular Diagnostics for Melanoma. Methods in Molecular Biology. Springer Science. 1102:83-95.2014

國頭英夫 くにとう・ひでお

日本赤十字社医療センター 化学療法科 部長
1961年鳥取県生まれ。1986年東京大学医学部卒業。国立がんセンター中央病院内科などを経て現職。日本癌学会・日本臨床腫瘍学会・日本肺癌学会評議員。これまでの著書に里見清一名義で『偽善の医療』(2009年)、『衆愚の病理』(2013年)、『医師の一分』(2015年、すべて新潮新書)、『誰も教えてくれなかった痛臨床試験の正しい解釈』(中外医学社、2011年)など多数。

窪倉浩俊 くぼくら・ひろし

日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器外科 講師
1967年神奈川県生まれ。1992年日本医科大学卒業、同年日本医科大学附属病院胸部外科入局。同院および栃木県東南総合病院(現・佐野市民病院)での一般外科研修、埼玉県立がんセンター胸部外科での専門研修を経て、1999年より日本医科大学呼吸器外科助手。2001年米国ミズーリ州ワシントン大学胸部外科留学。2004年日本医科大学北総病院呼吸器センター副センター長、2008年より現職。専門は呼吸器外科、肺癌外科治療、胸腔鏡手術。
これまでの著作に『専門医のための呼吸器外科の要点と盲点2』(文光堂、2010年)など。

後藤 悌 ごとう・やすし

がん研究センター中央病院 呼吸器内科
1977年神奈川県生まれ。2003年、東京大学医学部卒業。東京大学医学部附属病院、三井記念病院にて内科研修の後に、国立国際医療センター病院にて呼吸器内科を学ぶ。2006年から国立がんセンター中央病院で3年間、腫瘍内科医になるためのトレーニングを積んだ。2010年より東京大学医学部呼吸器内科に勤務し、2014年11月より現職。
専門は腫瘍内科学、呼吸器内科学。

佐治重衡 さじ・しげひら

福島県立医科大学腫瘍内科学講座 主任教授
同附属病院 臨床腫瘍センター センター長
放射線医学県民健康管理センター 地域がん登録室 室長
1968年岐阜県生まれ。1992年岐阜大学医学部卒業。東京都立駒込病院、岐阜大学大学院、埼玉県立がんセンター研究所、カロリンスカ医科大学(スウェーデン)、東京都立駒込病院乳腺外科・臨床試験科、M.D.アンダーソンがんセンター(米国)、埼玉医科大学国際医療センター腫瘍内科、京都大学大学院医学研究科標的治療腫瘍学講座を経て2014年9月より現職。特に乳癌を専門とする腫瘍内科医として診療を行ないながら、ホルモン療法・分子標的治療に関する基礎・臨床・トランスレーショナル研究を継続している。
これまでの著作に『内科学 第10版』(朝倉書店、2013年)、『新臨床腫瘍学』(南江堂、2015年)、『最新 内分泌代謝学』(診断と治療社、2013年)など。

品田雄市 しなだ・ゆういち

東京医科大学病院 がん専門相談員
1973年埼玉県生まれ。2012年ルーテル学院大大大学院博士前期課程修了。現在同大学院博士後期課程在学中。1995年より東京医大病院に勤務し、現在は医療福祉相談係長。国立がん研究センター相談員研修講師を務める他、新宿区や東京都のがん対策推進関連の委員として、地域における包括的かつ効果的ながん患者支援体制作りにも携わる。社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員・認定医療社会福祉士。専門は医療ソーシャルワーク、がん・脳卒中・救命救急などの急性期におけるソーシャルワーク実践。
「相談したら気持ち温かくなった」と患者さんに感じてもらえる相談支援を心掛けている。
これまでの著作に『医療福祉総合ガイドブック』(医学書院、2015年)など。

新聞秀一 しんま・しゅういち

大阪大学大学院工学研究科 生命先端工学専攻 准教授
1978年埼玉県生まれ。2007年総合研究大学院大学生命科学研究科卒。博士(理学)。日本学術振興会特別研究員を経て、2008年大阪大学科学教育機器リノベーションセンター特任研究員、2010年大阪大学産学連携本部特任助教、2012年国立がん研究センター研究所 研究員、2015年より現職。専門は分析化学、特に質量分析装置開発とイメージング質量分析を含む応用。
これまでの著作に『見つける、量る、可視化する!質量分析実験ガイド』(羊土社、2013年)など。研究室ブログ「メタボロミクスの華麗なる一族」(URLは<http://bit.ly/1ijV46T>)にて研究室の生活を綴っている。メールアドレスはsshimma@bio.eng.osaka-u.ac.jp
「双方にとってWin-Winの共同研究を今後展開していきたいと考えています。」

西村直樹 にしむら・なおき

聖路加国際病院 呼吸器内科 医長
1970年愛媛県生まれ。1995年徳島大卒。徳島大学病院での研修を経て、2000年徳島大学大学院卒(医学博士)。その後、徳島大学医員を経て、2001年東京都老人医療センター呼吸器科医員、2003年聖路加国際病院呼吸器内科医員、2014年より現職。なお、2010年より徳島大学医学部非常勤講師、2015年より聖路加国際大学研究センター臨床教授を兼任。専門は呼吸器内科全般、胸部悪性腫瘍、など。
これまでの著作に、『肺HRCT 原書4版』(丸善、2010年)、『胸部HRCTアトラス 原書3版』(丸善出版、2012年)など。

橋本一径 はしもと・かずみち

早稲田大学文学学術院 准教授
1974年生まれ。東京大学文学部思想文化学科卒業。フランス・ナント大学理工学部DEA課程修了。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。愛知工科大学講師を経て、2012年より現職。専攻は表象文化論。これまでの著作に『指紋論——心霊主義から生体認証まで』（青土社、2010年）、など。

濱 敏弘 はま・としひろ

がん研有明病院薬剤部 薬剤部長 院長補佐
1980年明治薬科大学卒。薬学博士（慶應義塾大学）。国立横浜病院、国立療養所中野病院、国立国際医療センターを経て、2006年よりがん研有明病院に勤務。東京都がん診療連携拠点病院薬剤師研修部会長、日本医療薬学会がんと専門薬剤師認定制度委員会委員長、東京都病院薬剤師会がん薬物療法専門薬剤師養成研究会委員長などを務める。日本がん薬剤学会代表理事。

原 文堅 はら・ふみたか

国立病院機構四国がんセンター 乳腺科・化学療法科
1973年岡山県生まれ。1999年岡山大学医学部卒。岡山赤十字病院で外科研修後、岡山大学医学部大学院外科学第二で学位取得。2004年米国テキサス州立大学MDアンダーソン癌センターに研究留学。2007年岡山大学血液腫瘍呼吸器内科医員を経て、2007年より現職。日本乳癌学会専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医。専門は腫瘍内科学、特に乳癌薬物療法。

日野原重明 ひのはら・しげあき

聖路加国際病院名誉院長 学校法人聖路加国際大学名誉理事長
一般財団法人ライフ・プランニング・センター理事長
1911年山口県生まれ（6人兄弟の3番目）。1937年京都帝国大学医学部卒業。1941年聖路加国際病院内科医となる。1942年京都帝国大学大学院（医学）修了。1951年エモリー大学医学部内科に1年間留学。1952年より、聖路加国際病院院長補佐（研究・教育担当）に就任（1972年迄）。1974年聖路加看護大学学長（第4代）に就任。1984年学校法人聖路加看護学園理事長。
1992年に聖路加国際病院院長。財団法人聖路加国際病院理事長。1999年、文化功労者。2005年、文化勲章授与。
専門分野は循環器内科、予防医学、健康教育、医学教育、看護教育、終末医療、老年医学。
これまでの著作に『医の道を求めて ウィリアム・オスラー博士の生涯に学ぶ』（医学書院、1993年）、『平静の心 オスラー博士講演集新訂増補版』（医学書院、2003年）、『だから医学は面白い—幻（ビジョン）を追い続けた私の軌跡』（日本医事新報社、2014年）など多数。

星野奈月 ほしの・なつき

がん研有明病院 緩和治療科 副院長
1971年三重県生まれ。1996年三重大卒。同第二内科ならびに関連病院での研修を経て、2006年同大学院修了。同年国立がんセンター（現国立がん研究センター）東病院緩和医療科シニアレジデント。2009年三重大学病院がんセンター助教。2010年静岡県立静岡がんセンター緩和医療科副院長。2012年東京女子医科大学療法・緩和ケア科助教。2014年より現職。
専門は一般内科学、血液内科学。
がん診療における集学的アプローチの一環としての緩和医療のあり方について模索する日々です。まだまだ未熟ですが、視野を広く持ち、多職種の方々とのチーム医療を実践してまいります。趣味：映画、音楽鑑賞。

三浦 理 みうら・さとる

新潟県立がんセンター新潟病院 内科
1974年新潟県生まれ。2000年新潟大学医学部卒。新潟大学第二内科（現呼吸器感染症内科）に入局し、関連病院にて一般内科、呼吸器内科診療に従事。2009年静岡県立がんセンター薬物療法専門医レジデントとして2年間研修。2011年新潟大学に帰局し、非常勤講師、高次救命災害治療センター特任助教を経て、2015年7月より現職。専門は呼吸器内科学、腫瘍内科学、肺がん化学療法。
これまでの著作に、『新版肺腫瘍内科診療マニュアル EBMと実臨床の立場から』（医薬ジャーナル社 2015年）など。

三浦裕司 みうら・ゆうじ

虎の門病院 臨床腫瘍科
熊本県出身。2002年鹿児島大学卒。虎の門病院血液内科、国立がんセンター中央病院内科レジデントなどで血液内科、腫瘍内科のトレーニングを受け、2010年がん薬物療法専門医、2014年がん薬物療法指導医を取得。2010より現職にて腫瘍内科医として勤務。
専門は腎がんをはじめとする泌尿器腫瘍に対する化学療法。

山内英子 やまうち・ひでこ

聖路加国際病院 乳腺外科 プレストセンター長
1963年東京都生まれ。1987年順天堂大学医学部卒。聖路加国際病院外科レジデントを経て、1994年渡米、Dana-Farbar癌研究所研究助手、1996年Georgitown大学Lonbardi癌センターでリサーチフェロー／助手。2001年ハワイ大学にて外科チーフレジデント、外科集中治療学臨床フェロー。2007年Moffitt癌センターにて臨床、研究。2010年より現職。米国外科学集中治療専門医、米国外科認定医。専門は乳腺外科。患者に寄り添う診療をめざしている。
これまでの著作に、『あなたらしく生きる』（日本キリスト教団出版局、2015年）、『実践がんサバイバーシップ』（医学書院、2014年）、『乳がんって遺伝するの？ 遺伝性乳がん・卵巣がんのすべて』（主婦の友社、2013年）、『よくわかる最新医学 乳がん』（主婦の友社、2012年）、『乳がん診療聖路加スタイル 最高のチーム医療をめざして』（中外医学社、2012年）など。

山口茂夫 やまぐち・しげお

順天堂大学医学部附属順天堂医院 腫瘍内科
1983年東京生まれ。2009年東北大学医学部卒。みやぎ県南中核病院での初期研修後、がん・感染症センター都立駒込病院化学療法科後期レジデント。2014年より現職。
専門は腫瘍内科学、バイオインフォマティクス。

吉岡弘鎮 よしおか・ひろしげ

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院呼吸器内科 医長
1974年愛媛県生まれ。2000年岡山大学医学部卒業。西神戸医療センターでの研修を経て、2002年神戸市立中央市民病院（現・神戸市立医療センター中央市民病院）呼吸器内科専攻医。2005年に倉敷中央病院呼吸器内科医員、2010年同外来化学療法センター部長、2011年より現職。
専門は呼吸器内科学（肺がん）、腫瘍内科学。
「よりよい治療を目の前のがん患者さんに届けるべく日々奮闘中です！」